

## 平成22年3月期 第1四半期決算短信

平成21年8月7日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 スクウェア・エニックス・ホールディングス

コード番号 9684 URL <http://www.square-enix.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 和田 洋一

問合せ先責任者 (役職名) 取締役

(氏名) 松田 洋祐

TEL 03-5333-1144

四半期報告書提出予定日 平成21年8月7日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年3月期第1四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	29,399	△1.2	594	△82.8	1,529	△66.3	△1,672	—
21年3月期第1四半期	29,770	—	3,463	—	4,535	—	2,883	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	△14.54	—
21年3月期第1四半期	25.10	25.01

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第1四半期	224,345	146,513	64.7	1,261.64
21年3月期	213,194	148,724	69.1	1,280.92

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 145,182百万円 21年3月期 147,318百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	10.00	—	20.00	30.00
22年3月期	—				
22年3月期 (予想)		10.00	—	20.00	30.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 連結累計期間	90,000	32.4	12,500	33.0	12,500	28.8	7,500	23.9	65.18
通期	180,000	32.7	25,000	103.6	25,000	122.0	15,000	136.8	130.35

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

## 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有  
 新規 1社 (社名 Eidos LTD. ) 除外 1社 (社名 )  
 (注)詳細は、6ページ【定性的情報・財務諸表等】4.その他をご覧ください。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無  
 ② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第1四半期	115,370,596株	21年3月期	115,305,996株
② 期末自己株式数	22年3月期第1四半期	296,242株	21年3月期	295,813株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第1四半期	115,010,060株	21年3月期第1四半期	114,854,298株

## ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1.上記の業績予想につきましては、本資料発表時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績は予想数値と異なる場合があります。業績予想に関する事項は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】「3.連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

## 定性的情報・財務諸表等

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当社グループは、これまで事業の種類別セグメントをゲーム事業、オンラインゲーム事業、モバイル・コンテンツ事業、出版事業、AM等事業及びその他事業と定め、昨年10月に発足した持株会社体制の下、各々の事業セグメントにおいて事業基盤の強化と収益力の向上に努めてまいりました。かかる組織体制や事業基盤の整備・強化を踏まえ、当第1四半期連結会計期間(平成21年4月1日～平成21年6月30日)より、事業の種類別セグメントを以下の通り変更することといたしました。

旧セグメント		新セグメント	
事業区分	主要な商製品	事業区分	主要な商製品
ゲーム事業	ゲーム	ゲーム事業	ゲーム、オンラインゲーム
オンラインゲーム事業	オンラインゲーム	アミューズメント事業	アミューズメント施設の運営、業務用ゲーム機器・関連商製品
モバイル・コンテンツ事業	携帯電話向けのコンテンツ	出版事業	コミック雑誌、コミック単行本、ゲーム関連書籍等
出版事業	コミック雑誌、コミック単行本、ゲーム関連書籍等	モバイル・コンテンツ事業	携帯電話向けのコンテンツ等
AM等事業	株式会社タイトーのオペレーション・レンタル、製品・商品販売、コンテンツサービス等の全事業	ライツ・プロパティ事業	キャラクターグッズ等の二次的著作物等
その他事業	キャラクターグッズ等の二次的著作物、ゲーム制作技術者養成スクール		

当第1四半期連結会計期間の業績は、売上高は29,399百万円(前年同四半期比1.2%減)、営業利益は594百万円(前年同四半期比82.8%減)、経常利益は1,529百万円(前年同四半期比66.3%減)、四半期純損失は1,672百万円(前年同四半期は四半期純利益2,883百万円)となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

## ○ゲーム事業

主としてゲームコンソール(携帯ゲーム機含む)、PCを対象としたゲーム及びオンラインゲームの企画、開発、販売及び運営を行っております。また、英国Eidos社の連結子会社化によって生じたのれんの償却費も当セグメントに計上しております。

当第1四半期連結会計期間は、ニンテンドーDS向けの「キングダムハーツ 358/2 Days」等の販売を行っております。また、MMORPG(Massively Multi-player Online RPG)「ファイナルファンタジーXI」の運営が堅調に推移いたしました。

当事業における当第1四半期連結会計期間の売上高は8,512百万円(前年同四半期比7.2%増)となり、営業損失は992百万円(前年同四半期は営業利益1,665百万円)となりました。

## ○アミューズメント事業

主としてアミューズメント施設の運営、並びにアミューズメント施設向けの業務用ゲーム機器・関連商製品の企画、開発及び販売を行っております。また、当第1四半期連結会計期間より、株式会社スクウェア・エニックスにおける業務用ゲーム機器の企画、開発及び運営も当セグメントに計上しております。さらに、株式会社タイトーの連結子会社化によって生じたのれんの償却費も当セグメントに計上しております。

当第1四半期連結会計期間は、業務用ゲーム機器では、「ドラゴンクエスト モンスターバトルロードII」が健闘したものの、引き続き厳しい外部環境の中、アミューズメント施設運営は、低調に推移いたしました。

当事業における当第1四半期連結会計期間の売上高は12,037百万円(前年同四半期比21.7%減)となり、営業利益は76百万円(前年同四半期比93.7%減)となりました。

## ○出版事業

定期刊行誌、各定期刊行誌で連載されているコミックの単行本、ゲームガイドブック等の出版を行っております。

当第1四半期連結会計期間は、人気作品のテレビアニメ化の効果により、コミック単行本の販売が伸長し、好調に推移いたしました。

当事業における当第1四半期連結会計期間の売上高は3,820百万円(前年同四半期比28.4%増)となり、営業利益は1,138百万円(前年同四半期比29.0%増)となりました。

## ○モバイル・コンテンツ事業

携帯電話向けコンテンツの企画、開発及び運営を行っており、着信メロディ、待受画面、ゲーム、ポータルサービスなど様々なモバイル・コンテンツサービスを提供しております。当第1四半期連結会計期間より、株式会社タイトーにおける携帯電話向けコンテンツの企画、開発及び運営も当セグメントに計上しております。

当第1四半期連結会計期間は、「ドラゴンクエスト」、「ファイナルファンタジー」のポータルサービス等を中心にオリジナルコンテンツの強みを生かした取り組みを継続強化し、順調に推移いたしました。

当事業における当第1四半期連結会計期間の売上高は2,660百万円(前年同四半期比1.2%増)となり、営業利益は1,164百万円(前年同四半期比11.6%増)となりました。

## ○ライセンス・プロパティ事業

主として当社グループのコンテンツに関する二次的著作物の企画・制作・販売及びライセンス使用を行っております。

当第1四半期連結会計期間は、4月に発売した映像作品「FINAL FANTASY VII ADVENT CHILDREN COMPLETE」が当事業の収益に貢献しております。

当事業における当第1四半期連結会計期間の売上高は2,370百万円(前年同四半期比173.5%増)となり、営業利益は1,130百万円(前年同四半期比317.5%増)となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末(平成21年6月30日)は、流動資産148,287百万円(前連結会計年度末比6.4%減)、固定資産76,058百万円(前連結会計年度末比38.8%増)、流動負債33,749百万円(前連結会計年度末比43.8%増)、固定負債44,082百万円(前連結会計年度末比7.5%増)、純資産146,513百万円(前連結会計年度末比1.5%減)となりました。

純資産の主な変動要因は、為替換算調整勘定による増加と四半期純損失及び剰余金配当による減少であります。

### ○連結キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の期末残高は87,055百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

#### ①営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益が594百万円(前年同四半期比4,042百万円の減少)に加えて、減価償却費1,689百万円(前年同四半期比100百万円の増加)、売上債権の増減額2,734百万円(前年同四半期比191百万円の減少)、たな卸資産の増減額△2,831百万円(前年同四半期比95百万円の増加)、仕入債務の増減額△3,778百万円(前年同四半期比4,016百万円の減少)、法人税等の支払3,411百万円(前年同四半期比2,665百万円の減少)等により、営業活動により支出した現金及び現金同等物は、5,908百万円(前年同四半期比8,384百万円の減少)となりました。

#### ②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動により支出した現金及び現金同等物は、14,705百万円(前年同四半期比13,861百万円の減少)となりました。主要因としては連結の範囲の変更に伴う子会社株式の取得による支出11,791百万円であります。

#### ③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により支出した現金及び現金同等物は、5,094百万円(前年同四半期比3,007百万円の減少)となりました。主要因としては配当金の支払額2,192百万円(前年同四半期比13百万円の増加)及び長期借入金の返済による支出3,039百万円であります。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループを取り巻く事業環境は、一般家庭へのブロードバンドの普及やゲームコンソールの多様化によるユーザー層の拡大により、新しい事業環境への移行期を迎えております。当社は、このような環境変化を新たな収益を獲得するチャンスと捉え、安定した収益基盤を確立しているネットワーク関連分野の事業推進を含め、より多くのユーザーの方々に当社コンテンツの魅力に触れて頂けるよう努めてまいります。

平成22年3月期の業績予想につきましては、平成21年5月19日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

なお、連結業績予想の作成に使用した主要為替レート的前提は、1ドル=90円、1ユーロ=120円であります。

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 1社 (Eidos LTD.)  
 新規の連結は、新たにEidos LTD.の株式を取得し、連結子会社としたことによります。
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
 該当事項はありません。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更  
 表示方法の変更
- ① 前第1四半期連結累計期間において、特別利益の「その他」に含めておりました「固定資産売却益」は、特別利益総額の100分の20を超えたため、当第1四半期連結累計期間より区分掲記することといたしました。なお、前第1四半期連結累計期間の特別利益に含まれる「固定資産売却益」は0百万円であります。
- ② 前第1四半期連結累計期間において、投資活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めておりました「定期預金の預入による支出」は、重要性が増したため、当第1四半期連結累計期間より区分掲記することといたしました。なお、前第1四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローに含まれる「定期預金の預入による支出」は△0百万円であります。

5. 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	88,146	111,981
受取手形及び売掛金	14,702	15,432
商品及び製品	5,250	4,917
仕掛品	430	291
原材料及び貯蔵品	526	581
コンテンツ制作勘定	26,051	18,392
その他	13,613	7,061
貸倒引当金	△433	△270
流動資産合計	148,287	158,387
固定資産		
有形固定資産	20,594	19,082
無形固定資産		
のれん	24,589	17,771
その他	13,516	925
無形固定資産合計	38,106	18,697
投資その他の資産	17,357	17,027
固定資産合計	76,058	54,806
資産合計	224,345	213,194

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,953	10,097
短期借入金	26	26
未払法人税等	7,877	3,239
賞与引当金	647	1,413
返品調整引当金	3,897	1,598
店舗閉鎖損失引当金	438	445
その他	11,909	6,656
流動負債合計	33,749	23,477
固定負債		
社債	37,000	37,000
退職給付引当金	1,835	1,644
役員退職慰労引当金	238	236
店舗閉鎖損失引当金	702	721
その他	4,307	1,390
固定負債合計	44,082	40,992
負債合計	77,832	64,469
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	15,204	15,134
資本剰余金	44,445	44,375
利益剰余金	88,806	93,220
自己株式	△853	△852
株主資本合計	147,602	151,879
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	5	△71
為替換算調整勘定	△2,425	△4,488
評価・換算差額等合計	△2,419	△4,560
新株予約権	476	410
少数株主持分	854	995
純資産合計	146,513	148,724
負債純資産合計	224,345	213,194



(2) 【四半期連結損益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	29,770	29,399
売上原価	16,401	16,918
売上総利益	13,368	12,481
返品調整引当金戻入額	1,135	4,863
返品調整引当金繰入額	1,155	3,897
差引売上総利益	13,348	13,446
販売費及び一般管理費	9,885	12,852
営業利益	3,463	594
営業外収益		
受取利息	112	39
受取配当金	1	13
負ののれん償却額	—	68
為替差益	917	773
雑収入	57	67
営業外収益合計	1,089	961
営業外費用		
支払利息	0	0
持分法による投資損失	12	1
支払手数料	—	18
雑損失	5	6
営業外費用合計	17	26
経常利益	4,535	1,529
特別利益		
固定資産売却益	—	31
貸倒引当金戻入額	158	5
その他	0	—
特別利益合計	158	36
特別損失		
固定資産除却損	43	54
投資有価証券売却損	20	—
事業買収関連費用	—	830
その他	9	78
特別損失合計	72	963
匿名組合損益分配前税金等調整前四半期純利益	4,621	602
匿名組合損益分配額	△15	8
税金等調整前四半期純利益	4,636	594
法人税、住民税及び事業税	480	1,181
過年度法人税等	—	1,109
法人税等調整額	1,271	△23
法人税等合計	1,751	2,267
少数株主利益又は少数株主損失(△)	1	△0
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,883	△1,672

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	4,636	594
減価償却費	1,588	1,689
のれん償却額	273	356
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△231	△303
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1,037	△766
返品調整引当金の増減額(△は減少)	55	△1,064
退職給付引当金の増減額(△は減少)	9	190
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	9	2
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	△27	△25
受取利息及び受取配当金	△114	△52
支払利息	0	0
為替差損益(△は益)	△857	102
持分法による投資損益(△は益)	12	1
売上債権の増減額(△は増加)	2,926	2,734
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,926	△2,831
仕入債務の増減額(△は減少)	238	△3,778
その他	△1,446	613
小計	3,107	△2,538
利息及び配当金の受取額	116	43
利息の支払額	△2	△2
法人税等の支払額	△746	△3,411
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,475	△5,908
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△849	△1,930
有形固定資産の売却による収入	1	138
無形固定資産の取得による支出	△44	△131
投資有価証券の売却による収入	2	—
定期預金の預入による支出	—	△1,069
定期預金の払戻による収入	—	106
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△11,791
貸付けによる支出	△62	△4
貸付金の回収による収入	3	1
その他	104	△25
投資活動によるキャッシュ・フロー	△843	△14,705

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	—	△3,039
株式の発行による収入	124	139
自己株式の取得による支出	△2	△1
配当金の支払額	△2,205	△2,192
少数株主への配当金の支払額	△2	—
その他	△0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,086	△5,094
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,190	1,317
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	736	△24,390
現金及び現金同等物の期首残高	111,479	111,875
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	65
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△66	△495
現金及び現金同等物の四半期末残高	112,148	87,055

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

前第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

	ゲーム事業 (百万円)	オンラインゲーム事業 (百万円)	モバイル・コンテンツ事業 (百万円)	出版事業 (百万円)	AM等事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高									
(1) 外部顧客に対する売上高	5,082	2,684	1,605	2,975	13,886	3,536	29,770	—	29,770
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	10	8	—	364	70	453	△453	—
計	5,082	2,694	1,614	2,975	14,250	3,606	30,224	△453	29,770
営業利益	76	1,569	886	882	198	1,070	4,684	△1,221	3,463

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、製品または商品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各区分に属する主要な製品又は商品

事業区分	主要製品又は商品
ゲーム事業	ゲーム
オンラインゲーム事業	オンラインゲーム
モバイル・コンテンツ事業	携帯電話向けのコンテンツ
出版事業	コミック雑誌、コミック単行本、ゲーム関連書籍等
AM等事業	株式会社タイトーのオペレーション・レンタル、製品・商品販売、コンテンツサービス等の全事業
その他事業	キャラクターグッズ等の二次的著作物、ゲーム制作技術者養成スクール

3. 会計処理の方法の変更

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

当第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、営業利益が、「ゲーム」で2百万円、「オンラインゲーム」で24百万円、「AM等」で116百万円減少しております。

## 当第1四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

	ゲーム事業 (百万円)	アミューズメント事業 (百万円)	出版事業 (百万円)	モバイル・コンテンツ事業 (百万円)	ライツ・プロパティ事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	8,512	12,037	3,820	2,660	2,368	29,399	—	29,399
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	0	1	1	△1	—
計	8,512	12,037	3,820	2,660	2,370	29,401	△1	29,399
営業利益又は営業損失(△)	△992	76	1,138	1,164	1,130	2,518	△1,923	594

## (注) 1. 事業区分の方法

事業は、製品または商品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

## 2. 各区分に属する主要な製品又は商品

事業区分	主要製品又は商品
ゲーム事業	ゲーム、オンラインゲーム
アミューズメント事業	アミューズメント施設の運営、業務用ゲーム機器・関連商製品
出版事業	コミック雑誌、コミック単行本、ゲーム関連書籍等
モバイル・コンテンツ事業	携帯電話向けのコンテンツ等
ライツ・プロパティ事業	キャラクターグッズ等の二次的著作物等

3. 当社グループは、これまで事業の種類別セグメントを「ゲーム事業」、「オンラインゲーム事業」、「モバイル・コンテンツ事業」、「出版事業」、「AM等事業」及び「その他事業」と定め、昨年10月に発足した持株会社体制の下、各々の事業セグメントにおいて事業基盤の強化と収益力の向上に努めてまいりました。当第1四半期連結会計期間より、かかる組織体制や事業基盤の整備・強化を踏まえ、「ゲーム事業」、「アミューズメント事業」、「出版事業」、「モバイル・コンテンツ事業」、「ライツ・プロパティ事業」に変更しております。なお、前第1四半期連結会計期間のセグメント情報を、当第1四半期連結会計期間において用いた事業区分の方法により区分すると次のようになります。

## 前第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

	ゲーム事業 (百万円)	アミューズメント事業 (百万円)	出版事業 (百万円)	モバイル・コンテンツ事業 (百万円)	ライツ・プロパティ事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	7,941	15,363	2,975	2,622	866	29,770	—	29,770
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	7	—	7	△7	—
計	7,941	15,363	2,975	2,630	866	29,777	△7	29,770
営業利益	1,665	1,205	882	1,044	270	5,069	△1,605	3,463

4. 営業費用の配賦方法の変更

従来、㈱タイトーの管理部門に係る費用の全額をAM等事業に含めておりましたが、当第1四半期連結会計期間より、消去または全社の項目に含めております。この変更は、当第1四半期連結会計期間から事業区分の変更に伴い、各セグメントにおいて管理すべき費用をより明確にするために行ったものです。なお、㈱タイトーの管理部門に係る営業費用は以下の通りであります。

当第1四半期連結会計期間 549百万円

前第1四半期連結会計期間 384百万円

## b. 所在地別セグメント情報

前第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	24,558	2,605	2,469	136	29,770	—	29,770
(2) セグメント間 の内部売上高 又は振替高	1,366	33	81	—	1,482	△1,482	—
計	25,925	2,639	2,551	136	31,252	△1,482	29,770
営業利益	2,025	913	500	26	3,465	△1	3,463

- (注) 1. 国または地域は、地理的近接度により区分しております。  
 2. 本邦以外の区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。  
 (1) 北米……アメリカ  
 (2) 欧州……イギリス  
 (3) アジア……中国、韓国  
 3. 会計処理の方法の変更  
 (棚卸資産の評価に関する会計基準)  
 当第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、営業利益が、「日本」で143百万円減少しております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	26,750	1,294	1,271	82	29,399	—	29,399
(2) セグメント間 の内部売上高 又は振替高	550	576	206	20	1,354	△1,354	—
計	27,300	1,871	1,478	103	30,754	△1,354	29,399
営業利益又は 営業損失(△)	2,124	△695	△846	2	584	10	594

- (注) 1. 国または地域は、地理的近接度により区分しております。  
 2. 本邦以外の区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。  
 (1) 北米……アメリカ、カナダ  
 (2) 欧州……イギリス、フランス、ドイツ他  
 (3) アジア……中国、韓国  
 3. 当第1四半期連結会計期間において、Eidos LTD.の株式を取得したことに伴い、北米の区分にはカナダ、欧州の区分には、フランス、ドイツ他が加わっております。

c. 海外売上高

前第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

	北米	欧州	アジア	計
I 海外売上高(百万円)	2,767	2,595	181	5,544
II 連結売上高(百万円)	—	—	—	29,770
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	9.3	8.7	0.6	18.6

- (注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。  
 2. 各区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。  
 (1) 北米……アメリカ、カナダ  
 (2) 欧州……イギリス、フランス、ドイツ他  
 (3) アジア……中国、韓国、台湾他  
 3. 海外売上高は、当社および連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高であります。

当第1四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

	北米	欧州	アジア	計
I 海外売上高(百万円)	1,510	1,346	287	3,144
II 連結売上高(百万円)	—	—	—	29,399
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	5.1	4.6	1.0	10.7

- (注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。  
 2. 各区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。  
 (1) 北米……アメリカ、カナダ  
 (2) 欧州……イギリス、フランス、ドイツ他  
 (3) アジア……中国、韓国、台湾他  
 3. 海外売上高は、当社および連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。